

目落口へぬける。岩は花崗岩だが、ヌルがついていていやら
 しかった。3段目は登れず、左岸を捲く。

小僧ヶ滝の上は急に平凡となる。杉林の中を細いミソ状の
 流れとなって流れるだけ。出合から30分遡行し、沢が2つに
 分かれた所で遡行終了とする。 (記・一)

[タイム] 出合(6:00)→小僧ヶ滝(6:05)→遡行終了(6:30)

湯の沢(仮称) 1990年9月22日

羽黒川との合流点から遡行開始。小さな沢だが、水はきれい
 だ。少し遡ると小滝が出てくる。落差が小さいし、スタン
 ス、ホールドが豊富なので、いずれの小滝も簡単に越える。
 5つ目がこの沢最大5mの滝。2条に分かれて流れ落ちている
 滝で、その中央部分を登る。滝の中間に直径3cm程の穴が
 ある。最初は別に気にしなかったが、登っていく途中で顔を近づけたらイオウの
 臭いがした。噴気口である。この穴から流れ出る微量の水にもイオウ分が含まれ
 ているのか、岩場がそこだけ白く変色していた。

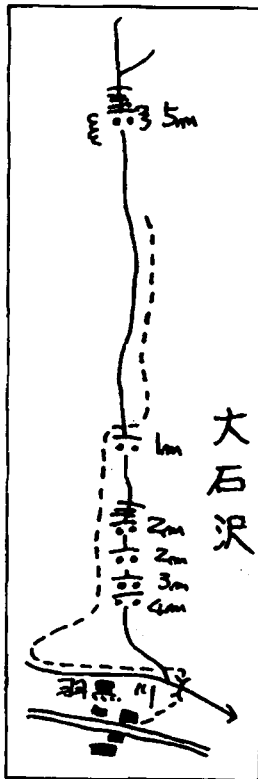
このあと小滝1つを越えると、古い橋があり、右岸はちょっとした広場になっ
 ている。地図に温泉記号のある所である。昔は温泉宿があったとかで、今でもコ
 ンクリートの基礎などが残っている。その一角に柵で囲った部分があり、中に鉄
 板でふたをした井戸状のものがある。耳をすますと、その内部で水が流れるよう
 な音がしている。ここが温泉の湧出口だったのだろうか。

このあと沢は全く平凡となる。やがてブッシュもかぶさった細い流れと変わる。
 出合から45分遡ったところで遡行終了とする。 (記)

[タイム] 出合(6:45)→旧温泉場(6:55)→遡行終了(7:30)

大石沢 1990年9月22日

羽黒川を渡渉して、8:10遡行開始。出合からみた感じは、暗い樹林帯を一気に
 突き上げており、期待がもてそうである。出合すぐに右へ支沢を分けると4mの



小滝。水流の右側を直登する。このあと、1~3mの滝が3つ続く。いずれもホールド豊富で、楽に登れる。最初の4m滝が魚止めの滝となっているのか、魚の姿は出合付近以外では全くみかけなかった。

1mの小滝を越えると、左岸の斜面にクワの木が一面に生育しているのが見えてきた。かなりの急斜面であるが、クワの木ばかりである。純粋の野生桑とも思えない生育状況であり、昔養蚕を営んでいた名残とも考えられる。

さて、このあと沢は急傾斜のゴーロ状となった。地図によれば、もう源流に近いあたりに滝記号がある。それを信じてなおも進む。しかし、滝は全くかからない。地図の滝記号は間違いではないか、それとも滝が崩壊して急傾斜のゴーロ状と変わってしまったのだろうか、などと雑念がうかぶ頃になって、兩岸に岩場が現われ、沢は急に険悪な様相を呈してきた。兩岸の岩場が幅1mくらいにせまる。そして

その奥に5m程の滝。地図はやはり間違っていなかった。なんだかうれしくなる。滝の前は兩岸の岩場が幅1mほどにせまり、そこに橋を渡すような感じで大岩がのっかって、まるで門をくぐってから滝に取り付くような感じである。でも、滝自体はスタンス豊富で、シャワーで楽に直登可能であった。

滝の上は急に平坦となり、沢は杉の造林地の中に消えてしまっていた。8:50遡行終了。(記・)

[タイム] 出合(8:10)→遡行終了(8:50)→出合(9:25)

笠松沢

1990年9月22日

山の中の湯治場という雰囲気を残す笠松鉱泉のすぐそばで羽黒川に合流する小沢が笠松沢である。10:10笠松橋よ

